

「主体的学び」専用教室で

朝日町は2月から、町立の全3小中学校に、自ら課題を見つけて解決策を探る「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング＝AL）」の学習に活用する専用教室を設置する。可動式の机や椅子で自由なレイアウトができる空間で、グループワークや発表形式の授業を行い、より効果的なALを実践する。

（柏木万里）



富山大学発達科学部で導入されているAL用の教室。可動式の机や色彩豊かな椅子、複数のホワイトボードが使われている（17日、富山大五福キャンパスで）

可動式の机や椅子 討論・発表しやすく

朝日町立3小中学

文部科学省によると、小中学校では2020年度、中学校では今年度からの学習指導要領で、討論や発表を重視したALへの転換を促している。課題解決型の授業を取り入れることで、児童・生徒の思考力や判断力、表現力を養う狙いだ。

ただ、ALの授業を行うには、通常の黒板を前にした一方向型の教室よりも、子供同士が向き合える対面型の方が適しているのではという意見もある。このため同町が予定しているAL室には、曲線や多角形の机を配置し、可動式の椅子と大型のモニターなどを複数台設置する。

同町では20年度、さみさと小とあさひ野小の2校で、文科省の実証研究校として県内で先駆けてデジタル教科書を導入。現在は中学も含めた全校でタブレット端末を授業で使用している。AL室はデジタル教科書の導入で利用頻度の減つ

「主体的、対話的な新たな学びが行いやすい学習環境を実現し、新学習指導要領が求める力の育成に努めたい」と話している。

ALの専用教室は全国でも徐々に広まっている。大手文具メーカー「コクヨ」は、東京大学に可動式の机やIT機器を備えたAL専用の教室を07年に設置して以降、全国の大学や学校では、専用教室の設置を通じて、

ALの導入を推進する「カイアエデュケーション」（東京都）は、専用教室での授業を半年以上経験した全国9校で、教員や児童・生徒を対象にアンケートを実施。「普段おとなしい子の発言が増えた」と感じた教員は8割以上に上り、児童・生徒の8割も「いつもの教室より話し合いや、教え合いがやりやすい」と好意的な回答をした。

県内では富山大や県立大などで、ALに適した教室が使われている。ALに詳しい富山大の竹村哲教授（教師学、教育経営学）は、「決まった場所に座るという意識が解放されることで、自由な活動につながる効果が見込まれる」と期待した上で、「実践するためにはソフトとしての教師の問いかけの充実も必要。教室をいかすためには教師側のALへの深い理解も不可欠だ」と指摘する。